

# WJOG通信 vol.12

## ご挨拶

皆さま、こんにちは。

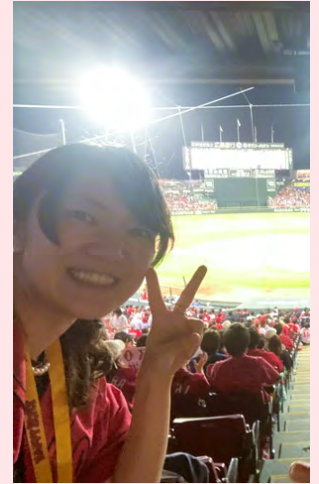
少しずつ春の気配を感じる季節となりましたが、いかがお過ごしでしょうか。

今号のWJOG通信では、「臨床試験の成果を、患者さん・社会へどう届けるか」をテーマに特集を組みました。

臨床試験は、新しい治療や副作用対策を生み出す大切なプロセスですが、その成果が本当に活かされるためには、専門家だけでなく、患者さんや市民のみなさまにも、きちんと伝えることが必要だと感じています。WJOGでは、臨床試験を通してよりよい医療を目指すと同時に、その成果をどのように社会へ届けていくのかも大切にしていきたいと考えています。

この通信を通して、WJOGの研究活動と、その背景にある想いを少しでも身近に感じていただけたら幸いです。

<編集担当者> がん研究会有明病院 乳腺センター・乳腺外科 WJOG教育広報委員会 木村 優里



## 特集

### 臨床試験の成果を、患者さん・社会へどう届けるか

#### — ERICA試験からみるプレーンランゲージサマリーの取り組み —

2024年にスペインのバルセロナで開かれた欧州臨床腫瘍学会（ESMO Congress 2024）にて、WJOG乳腺グループが行ったWJOG14320B ERICA試験の結果が発表されました。

ERICA試験は、HER2陽性乳がんの治療薬「トラスツズマブ デルクステカン」を使ったときに起こりやすい「吐き気」や「おう吐（吐いてしまうこと）」といった副作用を、どうすれば軽くできるかを調べた研究です。

この試験では、研究成果を専門家向けの学会や論文で発表するだけでなく、患者さんや市民のみなさまにも内容をわかりやすく伝えるために「プレーンランゲージサマリー（PLS）」というやさしい言葉でまとめた資料も作成しました。

そこで今回は、ERICA試験の研究代表医師である酒井瞳先生に、臨床試験の結果をどのように伝えていくのか、そして研究の成果をどのように社会に役立てていくのかについて、お話を伺いました。

聞き手  
木村 優里



### プレーンランゲージサマリーとはどのようなものなのでしょうか？

プレーンランゲージサマリー（レイサマリーとも呼ばれる）は、臨床試験の結果を、専門用語をできるだけ使わず、わかりやすい言葉でまとめた要約のことです。対象となるのは、一般の市民の方、患者さんや家族・介護者の方、専門ではない医療関係者、業績や政策に関わる方など、様々な立場の人たちです。専門用語で紹介されがちな内容を、易しく「知り」「理解する」ことを目的に作られます。

最近では、研究の成果やその意味、今後の課題について、研究者と市民が意見を交わしながら共有していくことが大切と考えられています。こうした取り組みは「科学コミュニケーション」と呼ばれ、医学の分野でも重要とされています。プレーンランゲージサマリーは、そのような対話を進めるための大切な手段のひとつです。



回答者：昭和医科大学  
先端がん治療研究所  
酒井 瞳



## 臨床試験の成果は、どのように患者さんや社会に役立てられるべきでしょうか？

臨床試験によって、より効果の高い治療法や、副作用を軽くする方法が見つければ、それは患者さんや社会にとって大きな希望になります。



特に、治療を受ける患者さんやそのご家族が臨床試験の結果を知るとはとても大切です。結果を知ることによって治療法を選ぶときの参考にしたり、副作用への備えに役立てたりすることができます。研究の成果は、専門家だけのものではありません。実際の患者さんに活かされることが大事だと考えています。



## 今回のプレーンランゲージサマリー作成を通して感じられたこと、また今後このような取り組みに期待されることを教えてください。

ERICA試験の結果は、「トラスツズマブ デルクステカン」という治療薬の副作用への対策に、すぐに役立てられる内容だと考えました。そのため、多くの方にわかりやすく伝えたいと思い、プレーンランゲージサマリーを作成しました。



一方で、本当に情報を必要としている患者さんに、どのように届けばよいのか、という点には、まだまだ課題があると感じています。

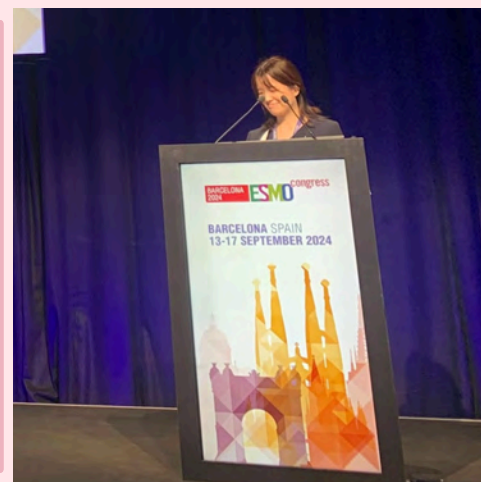
また、情報を一方的に伝えるだけでは十分ではありません。患者さんや市民のみなさんと意見を交わし、お互いに理解を深めていくこと、すなわち「科学コミュニケーション」が大切だと考えています。

今後は、このような取り組みを通じて、患者さんや市民のみなさんの声が臨床試験により反映されていくことを期待しています。

臨床試験は、患者さんと医療者が力を合わせ、よりよい医療を目指して進めていく取り組みです。

プレーンランゲージサマリーは、その内容をわかりやすく伝えることで、患者さんやご家族との信頼を深め、希望にもつなげるための大切な一歩になると考えています。

ERICA試験のプレーンランゲージサマリーは、右のQRコードからご覧いただけます。ぜひ実際にお読みいただき、臨床試験の成果がどのように社会へ届けられているのかを知っていただければ幸いです。



## 大阪オンコロジーセミナーのご案内

WJOGでは、近畿がん診療推進ネットワーク、エイターヘルスケア株式会社、がん情報サイト「オンコロ」（3Hメディソリューション株式会社）と連携し、共催がん診療セミナーをしております。

開催9年目を迎える2026年も昨年に引き続き、原則毎月第2金曜日に「夜間学校」、原則毎月第3水曜日に「笠井信輔のこんな聞いてもいいですか on the WEB」をお送りしています。

「夜間学校」は、罹患者数が多いがん（肺がん、胃がん、乳がんなど）を取り上げ、各疾患のオピニオンリーダーを講師に迎え、講義と質疑応答で進める60分のセミナー形式。「笠井信輔のこんな聞いてもいいですか on the WEB」は、患者さんやそのご家族、医療従事者など、各回さまざまなゲストをお招きし、ライブ配信ならではの熱量でお届けいたします。

セミナーは、全コンテンツをウェブライブ配信し、後日オンコロYouTubeチャンネル『OncoloChannel』にアーカイブ配信いたします。お申込みは不要です。是非、ご聴講ください。詳しくは下記のQRコードをご覧ください。

◆リンク先

がん情報サイト「オンコロ」





WJOGでは、各臓器グループが実施する臨床試験の成果を、国内外の学会で発表しています。国際学会での発表は、日本で積み重ねられてきた研究成果を世界に向けて共有する大切な機会です。

国際学会では、世界中の研究者との議論を通じて、研究成果を新たな視点で検討したり、未来の治療につながる研究の種も生まれます。ここでは、近年海外学会で発表された主な試験をご紹介します。それぞれの研究が、よりよい医療の実現にどのようにつながっていくのか、その一端を感じていただければ幸いです。

## 乳腺グループ

### WJOG16822B 試験

サンアントニオ乳癌シンポジウム (SABCS 2025) において、多施設前向き観察研究WJOG16822BをTrial in Progressとして発表しました。本研究は、国家プロジェクト「全ゲノム解析等実行計画」(厚生労働省)の一環で、AMED研究として進めているものです。再発リスクの高い乳癌では、手術の前に抗がん剤治療などが行われますが、その治療がどの程度効果を示すのかを事前に予測することや、手術後にどの治療を選ぶべきかについては、まだ多くの課題があります。

本研究では、乳癌の腫瘍組織を用いて全ゲノム解析等を行い、治療効果を予測する手がかりや新しい治療標的を見つけることを目指しています。これにより、より一人ひとりに合った周術期治療の実現につながりたいと考えています。2027年3月までに400例の登録を予定し、現在も症例登録を継続中です。SABCSでは最先端のAIやゲノム解析技術を有する企業から高い関心が寄せられ、共同研究の可能性についても議論することができました。今後は産学連携や国際連携も視野に入れながら、全ゲノム情報に基づく新たな乳癌診療の実現を目指していきます。



写真左：WJOG乳腺グループ長 高野 利実 SABCS 2025会場にて  
【研究事務局】がん研究会有明病院 乳腺センター・乳腺内科 増田 淳 (写真右)

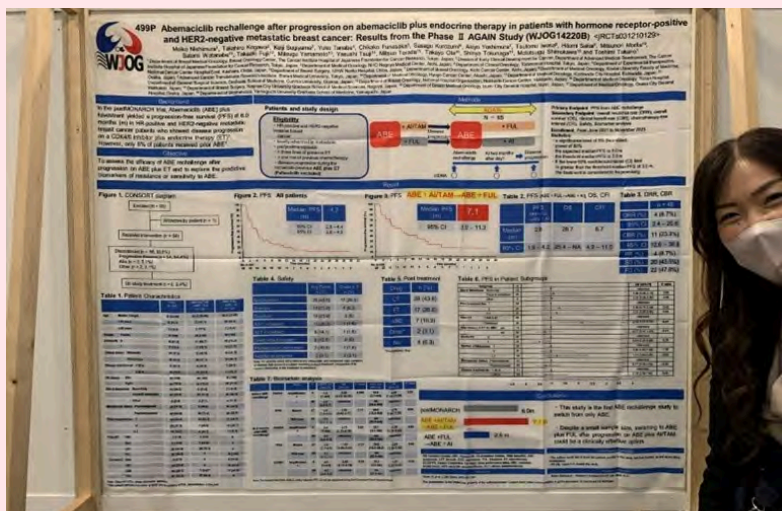
## 乳腺グループ

### WJOG14220B (AGAIN) 試験

アベマシクリブ (ABE) 投与後のHR陽性HER2陰性転移再発乳癌に対するABEのre-challenge (リチャレンジ) 試験{WJOG14220B(AGAIN)}の結果をESMO2025で発表しました。

CDK4/6 (Cyclin Dependent Kinase:サイクリン依存性キナーゼ) 阻害薬と内分泌療法で病勢の増悪後のABEとフルベストラント (FUL) 併用療法を検証した他の試験での無増悪生存期間 (PFS) 中央値は6.0カ月でしたが、前治療のCDK4/6阻害剤のABEの割合は8%であり、ABEのrechallengeについて前向き試験の報告はこれまでありませんでした。

本試験では、ABEと内分泌療法で病勢の増悪後に内分泌療法を変更してABEを継続し、65例が登録され、28例がアロマターゼ阻害薬 (AI) 又はタモキシフェン (TAM) からFULに、36例がFULからAIに変更されました。主要評価項目はPFS中央値で90%信頼区間下限が閾値3.0カ月を上回った場合に有効としました。PFS中央値は4.2カ月(90%CI:2.8-4.4)で90%信頼区間下限は3.0カ月に到達しませんでした。ABE+AI/TAM→ABE+FUL群のPFS中央値は7.1カ月、ABE+FUL→ABE+AI群では2.8カ月で、サンプルサイズは少ないもののABE+I/TAM→ABE+FULは治療選択肢の一つになり得る可能性が示されました。



ESMO (欧州臨床腫瘍学会) 2025会場にて  
【研究事務局】がん研究会有明病院 乳腺センター・乳腺内科 西村 明子

※英語略語解説

- \* ABA：アベマシクリブ
- \* CDK4/6阻害剤：サイクリン依存性キナーゼ
- \* FUL：フルベストラント
- \* AI：アロマターゼ阻害薬
- \* TAM：タモキシフェン
- \* PFS: 無増悪生存期間

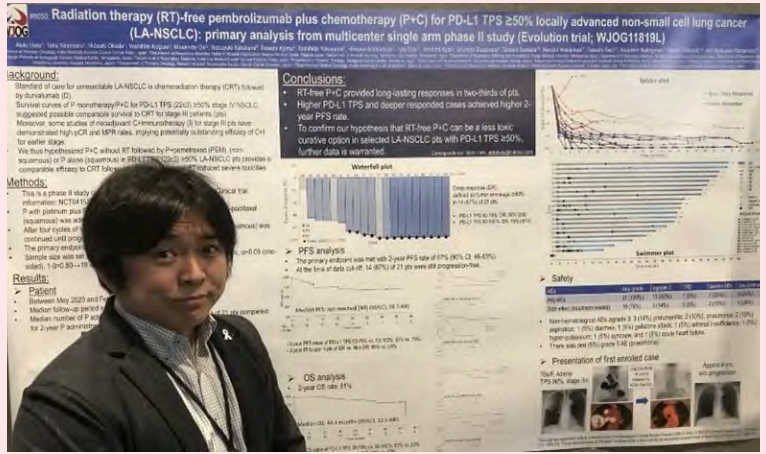
私たちは、PD-L1（免疫療法の効果を予測するタンパク質）が高く発現している局所進行の肺がんの患者さんを対象に、放射線治療を使わずに、免疫の力を利用した薬（ペムブロリズマブ）と抗がん剤を組み合わせる治療で、がんの根治を目指せるかを調べる臨床試験を行ってきました(WJOG11819L: Evolution試験)。

これまで、この段階の肺がんでは、抗がん剤と放射線を同時に行う治療が標準とされてきました。しかし、放射線治療は時に体への負担が大きく、副作用に悩まれる患者さんも少なくありません。そこで私たちは、放射線を使わず、より体にやさしい治療でも同じような治療効果が得られないかという新しい挑戦を行いました。

この試験は難易度が高く、途中で続けることが難しいのではないかと心配される場面もありましたが、多くの医師、医療スタッフ、WJOGメンバー、そして参加頂いた患者さんの協力により、最後までやり遂げることができました。

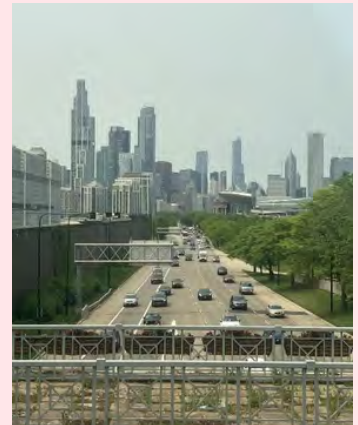
その結果、治療開始から2年後もがんが進行していない患者さんの割合は67%（3人に2人）と、当初の期待を上回る良好な成績でした。この成果は、2024年の米国臨床腫瘍学会（ASCO）で発表され、国際的な医学雑誌であるランセットオンコロジーにも掲載されました。

現在は、この新しい治療法と、これまでの標準治療を直接比べる、さらに大きな臨床試験の準備を進めています。肺がんの患者さんが、より少ない副作用で、安心して根治を目指せる治療を受けられる未来につながることを、心から願っています。



ASCO2024のポスター会場にて

【研究事務局】神戸低侵襲がん医療センター 呼吸器腫瘍内科 秦 明登



学会場の廊下から見えるシカゴの街並み in ASCO2024

# WJOG10617G (P-SELECT) 試験

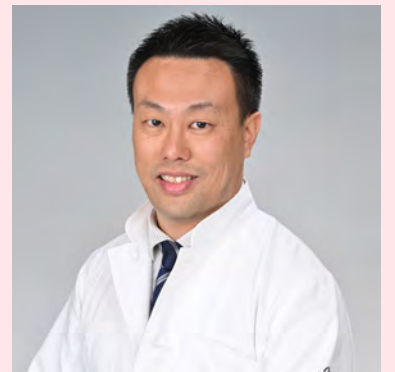
この研究（P-SELECT試験）は、お腹の中（腹膜）にがんが広がっている胃がんで、すでに治療を受けたことのある患者さんを対象に行われました。こうした状態の患者さんを対象にした前向き臨床試験は、これまでとても少なく、新しい治療の選択肢を検討することが強く求められていました。

この試験では、2つの抗がん剤治療の組み合わせを比べました。どちらも現在使われている治療ですが、「どちらがより患者さんにとって続けやすく、安全なのか」「治療の効果や負担に違いがあるのか」を、きちんと比較することが目的でした。

結果として、生存期間そのものには大きな差はありませんでした。しかし一方で、副作用の出方、治療をどれくらい続けられたか、薬を予定どおり使えたかといった、実際の治療生活に直結する点では、それぞれの治療の特徴がはっきりしました。これは、患者さん一人ひとりに合った治療を選ぶうえで、とても大切な情報です。さらにこの研究では、がんの周囲の組織にある「Caveolin-1（カベオリン・ワン）」というたんぱく質にも注目しました。その結果、特定のタイプの治療で、効果と関係している可能性が示され、将来「どの患者さんに、どの治療が合いやすいか」を考える手がかりになると期待されています。

この試験は、2022年に開催された米国臨床腫瘍学会の消化器がん専門会議（American Society of Clinical Oncology GI）でも発表され、治療が難しい腹膜播種に正面から取り組んだ研究として、多くの医師や研究者から関心と前向きな議論が寄せられました。

研究の詳しい結果は、医学誌eClinicalMedicineに掲載されています。この研究が、将来、患者さんご家族が治療を選ぶ際の助けになることを願っています。



【研究事務局】慶應義塾大学病院 消化器内科 平田 賢郎

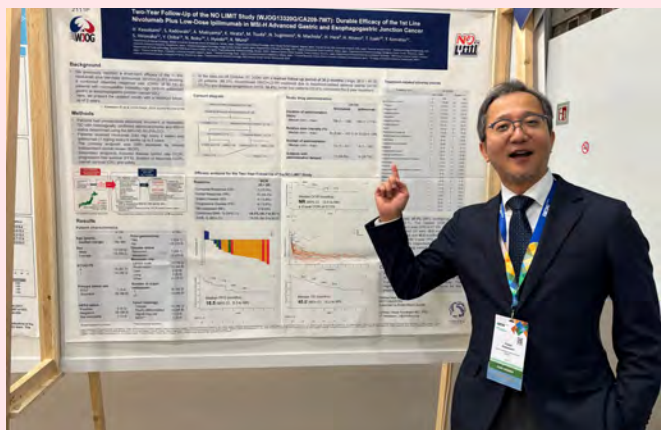
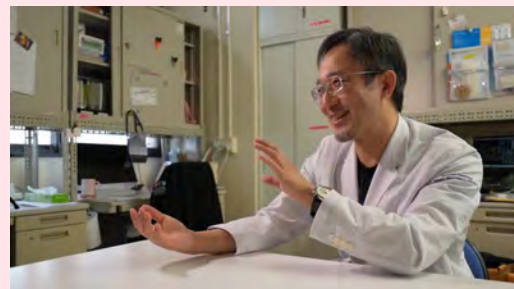
WJOG13320G (NO LIMIT) 試験は、WJOG消化器グループとして初めて実施された医師主導治験であり、未治療でマイクロサテライト不安定性陽性の進行胃癌・食道胃接合部癌を対象として、免疫チェックポイント阻害剤であるニボルマブ（オプジーボ）と低用量イピリムマブ（ヤーボイ）併用療法の有効性と安全性を検討した、世界で初めて行われた第II相試験です。

マイクロサテライト不安定性陽性とは、細胞が分裂する際に正しく複製されなかったDNAの「エラー」を修復する機能が低下している状態を反映したもので、進行胃癌・食道胃接合部癌の約5%に見られ、免疫チェックポイント阻害剤の効果が高い集団として知られています。

試験には29人の患者さんが登録され、腫瘍が30%以上縮小した割合は62.1%、画像上の腫瘍が消失した割合は10.3%と高い有効性を示しました。2023年の欧州腫瘍学会で愛知県がんセンターの室先生が試験結果を公表し、試験の結果は米国臨床腫瘍学会の機関誌に論文掲載されました。

期間を延長して実施した追加の観察では、病気が進行するまでの期間の中央値は18.5か月、生存期間の中央値は40.0か月であることが報告され、治療開始から2年時点で病気が進行していない患者さんの割合および生存率はそれぞれ49%、62%でした。これらの結果は2025年欧州腫瘍学会で東北大学病院川上先生が報告し、未治療のマイクロサテライト不安定性陽性胃癌における免疫チェックポイント阻害剤の併用療法の効果が長い期間持続することを示した重要な結果として注目を集めました。

WJOG13320G 試験は、がん治療研究を応援するプロジェクト「deleteC HOPE」において、2021年度に受賞いたしました。本試験の背景や目的について、わかりやすく解説した動画をご覧ください。QRコードからアクセスできますので、ぜひ視聴ください。 ◆リンク先：認定NPO法人 deleteC Youtube



ESMO（欧州臨床腫瘍学会）2025会場にて

【研究事務局】東北大学病院 腫瘍内科 川上 尚人

【研究事務局】埼玉県立がんセンター 消化器内科  
高橋 直樹

WJOG15822G試験は、切除不能もしくは再発した胃もしくは食道胃接合部癌の3次治療以降において、FTD/TPI（トリフルリジン・チピラシル）単剤療法とFTD/TPI+ラムシルマブ併用療法を直接比較した初めてのランダム化第II相試験になります。2026年の1月に開催された米国臨床腫瘍学会消化器がんシンポジウムで主たる結果をポスター発表いたしました。

本試験は111例の症例が登録され、主要評価項目である無増悪生存期間の中央値はFTD/TPI単剤群が2.07か月、FTD/TPI併用療法群が2.86か月で統計学的に有意な差は認めませんでした。また、腫瘍縮小の指標である奏効割合（9.1% vs 5.4%）や病勢制御割合（47.3% vs 50.0%）でも大きな差は認めませんでした。残念ながら、FTD/TPI単剤に対するラムシルマブの上乗せ効果は示されませんでした。胃癌の日常診療において意義のある結果であったと考えております。

会場での発表では、本試験の参加施設の先生方や海外の研究者の方々と意見交換をし、大きな刺激をうけました。この度は貴重な発表の機会をいただき、本試験に関わる全ての方々、WJOGの多大なるご支援に深く感謝申し上げます。



米国臨床腫瘍学会消化器がんシンポジウム2026会場の様子

## 「知っておきたい、がん治療にかかわるお金と支援の話」を終えて

教育広報委員会 高濱 隆幸(近畿大学)

2025年11月30日、大阪市中之島会館において、WJOG（西日本がん研究機構）主催による市民公開講座「知っておきたい、がん治療にかかわるお金と支援の話～『なんぼかかるん？』わたしががん治療～」を開催いたしました。当日は会場とオンライン配信を合わせ、100名を超える多くの方々にご参加・ご視聴いただき、大盛況のうちに終了いたしました。

今回、テーマに掲げたのは、がん治療において多くの患者さんやご家族が直面する「お金と支援」という非常に切実な課題です。プログラムでは、まず三浦理先生（WJOG教育広報委員長）の開会挨拶に始まり、続く講演では小澤雄一先生（浜松医療センター）が医師の立場から、川崎由華様（がんライフアドバイザー協会）が専門家の立場から、そして「NPO法人肺がん患者の会ワンステップ」様より、働く患者としての視点から、それぞれの知見を共有して下さいました。

特筆すべきは、総合司会を務められた桑原征平氏と小寺右子氏（ABCアナウンサー）による、温かくも活気あふれる進行です。プロの卓越した導きにより、一見難しく感じられがちな経済的な話題も、一般の皆様にとって非常に親しみやすく、かつ笑いも交えた「楽しく分かりやすい」企画としてお届けすることができました。

後半のパネルディスカッションでは、私もディスカッションに加わり、登壇者全員でさらに深い議論を展開しました。参加者からは「具体的な費用の目安や支援制度を知ることができ、漠然とした不安が解消された」といった心強いお声を多数いただいております。



2025年度市民公開講座 出演者・共催一同

WJOGは、高度な臨床研究を推進する一方で、患者さんや市民の皆様が直面する生活上の不安にも寄り添いたいと考えております。今後も、このような場を通じて、分かりやすく正しい医療情報を継続的に届けてまいります。ご参加いただいた皆様、誠にありがとうございました。



パネルディスカッションの様子

2025年度大阪市民公開講座は、Youtubeにてアーカイブを公開中です。

右のQRコードからアクセスいただき、ぜひご視聴ください。

また、WJOGホームページ内の「イベント：WJOG市民向けセミナー」

にも、過去のアーカイブ動画を掲載しております。

こちら合わせてぜひご覧ください。



2025年度 大阪市民公開講座

知っておきたい、がん治療にかかわるお金と支援の話  
～『なんぼかかるん？』わたしががん治療～

2025  
11.30(日) 13時30分～15時30分

会場 中之島会館  
（大阪市中之島3-2-4）

プログラム

- ①「開会の立場から」 小澤 雄一
- ②「がんライフアドバイザーの立場から」 川崎 由華
- ③「働く患者としての視点から」 三浦 理

総合司会 桑原 征平、小寺 右子

11.12(日) 23:59まで  
インターネットから申し込みにくい  
会場での申込・オンライン配信での視聴 いずれかをお選びください  
<https://forms.gle/9jrMAWTQxwT8q5wE9>

## ご寄付のお願い

WJOGの事業活動を継続して行うためには相応の資金が必要となります。

WJOGの臨床試験に対しては、製薬企業等からの資金提供を受ける受託研究としての運営を積極的にすすめておりますが、さらに多くの有意義な臨床試験を行うためには、WJOGはその資金を獲得しなければなりません。

また、NPO法人としてWJOGの活動を支えているのは一般市民のみなさんからの寄附です。特に一般の方からの寄附は、そのNPO法人が社会的支持を受けている証左になりますので、NPO法人の社会的な認知と意義を評価する上で極めて重要な意味があります。

WJOGは2015年8月31日に、認定NPO法人として大阪市より認定されました。がんの臨床試験の推進、がん研究者の育成、がん治療の啓発等、WJOGの活動が公益性を有すると認められたものと考えています。引き続きWJOGの活動を多くの方に広めていただきたいと思います。

本年度もWJOGに寄附をお願いいたしたく存じます。尚、ご寄附を頂ける場合には、添付の振込用紙（振込手数料不要）をご使用ください。また、WJOGへの寄附は確定申告する際に所得税の控除が受けられます。「寄附受領書」をお送りしますので、郵便振替用紙にはっきりとご連絡先（お名前とご住所）をご記入ください。

最後に、今後ともご指導、ご鞭撻を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

## ご寄付の方法

個人として、ご寄附を頂ける場合には、以下のいずれかの方法にてお願いいたします。

### 1)郵便振替用紙を利用して寄附金を振込

口座名称：特非) 西日本がん研究機構寄附口  
口座名称 (カナ)：トクビ)ニシニホンガ ンケンキュウキコウキフグチ  
口座番号：00900-4-274461

※当法人にて郵便振替用紙を準備しておりますので、問い合わせ先までご連絡頂ければ、郵便振替用紙を郵送いたします。

### 2)銀行口座から寄附金を振込

銀行名称：ゆうちょ銀行  
口座名称：特非) 西日本がん研究機構寄附口  
口座名称 (カナ)：トクビ)ニシニホンガ ンケンキュウキコウキフグチ  
店名 (店番)：0九九 (ゼ)ロキュウキュウ) 店 (099)  
預金種別：普通  
口座番号：0274461

### 3)クレジットカード決済で寄附をする

クレジットカード決済で寄附をされる方はQRコードよりお手続きください。  
使用できるカード会社 (VISA・MASTER・JCB・AMEX・DINERS)



## 寄付控除について

当法人への寄附金には、認定NPO法人への寄附として税法上の優遇措置があります。個人の場合には、所得税(国税)において、寄附金控除(所得控除)又は税額控除のいずれかを選択して確定申告を行うことにより、所得税の控除を受けることができます。また、寄附された財産については相続税の課税対象から除かれます。

詳細は、「内閣府NPOホームページ」や「国税庁ホームページ」をご参照ください。

寄附金控除(所得控除)額 = 寄附金の額の合計額 - 2千円

税額控除額 = (寄附金の額の合計額 - 2千円) × 40%

注：法人の場合には、一般のNPO法人に寄附した場合の一般損金算入限度額とは別に、別枠の特別損金算入限度額が設けてられており、その範囲内であれば損金の額に算入することが認められています。

お願い：お振込み後、当法人から所得税の確定申告時に必要な寄附受領証（領収書）を送付いたしますので、郵便振替用紙ご使用の場合に郵便振替用紙にご連絡先（お名前とご住所）を必ずご記入ください。

郵便口座または銀行口座に振込の場合には、振込後に、電話、FAXまたはE-Mailにてご連絡先（お名前とご住所）を下記問合せ先までお知らせください。

ご連絡先がわからない場合には、寄附受領証（領収書）が送付できませんので、くれぐれもご注意ください。

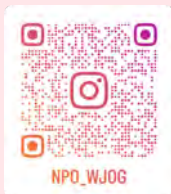
法人として、寄附金を頂ける場合には、大変お手数ですが下記の問い合わせ先まで、ご連絡の程お願いいたします。

WJOGのSNSアカウント  
ご登録をお願いいたします

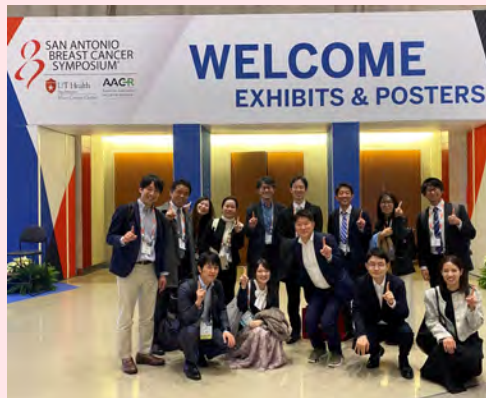
Youtube



Instagram



X(旧Twitter)



2025年12月開催のサンアントニオ  
乳癌シンポジウムに参加してきました！  
<編集担当者>  
WJOG教育広報委員会 木村 優里

リバーウォークでランチしました。  
大量の鳩に食事を襲われて、  
激しくバトルが繰り広げられました。



### ご寄付についてのお問い合わせ先



認定特定非営利活動法人 西日本がん研究機構

〒556-0016 大阪府大阪市浪速区元町1-5-7 ナンバプラザビル304

☎ 06-6633-7400 (平日10時-16時) FAX: 06-6633-7405

✉ wjog@wjog.jp ホームページ: <https://www.wjog.jp/>

